



## 2025年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2024年8月14日

上場会社名 株式会社ペルセウスプロテオミクス 上場取引所 東  
コード番号 4882 URL <https://www.ppmx.com/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 横川 拓哉  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理部長 (氏名) 鈴木 信一 (TEL) 03(6264)8268  
配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無：無  
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年3月期第1四半期の業績（2024年4月1日～2024年6月30日）

#### (1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第1四半期	20	△15.8	△221	—	△214	—	△219	—
2024年3月期第1四半期	24	△2.4	△234	—	△224	—	△422	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第1四半期	△15.79	—
2024年3月期第1四半期	△35.90	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第1四半期	2,206	1,906	82.7
2024年3月期	1,693	1,398	78.2

(参考) 自己資本 2025年3月期第1四半期 1,824百万円 2024年3月期 1,324百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年3月期	—	—	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2025年3月期の業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

2025年3月期の業績予想につきましては、現時点で合理的な予測が困難であるため、記載しておりません。詳細につきましては、添付資料3ページの「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年3月期1Q	14,226,300株	2024年3月期	11,936,400株
② 期末自己株式数	2025年3月期1Q	50株	2024年3月期	50株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2025年3月期1Q	13,884,413株	2024年3月期1Q	11,759,353株

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第1四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6
(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	6
(セグメント情報等の注記) .....	6

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間における世界経済は、各国の金融引締めや中国経済の先行き懸念、ウクライナ情勢や中東情勢等から、不透明な状況が継続しました。国内経済は、足踏みも見られたものの緩やかな回復基調となりましたが、物価上昇や海外景気の下振れに注意が必要な状況が続きました。

当社が属する医薬品業界におきましては、新規感染症への対策や、がんや認知症等、世界的に患者数が増えている疾患の治療法の確立が、継続的な重要課題になっております。当社におきましては、創薬領域を中心に、積極的な事業展開を図りました。各領域における成果は次のとおりです。

#### ① 創薬

当第1四半期累計期間における売上はありませんでしたが、当社の抗体取得プラットフォームを活用し、主にがん領域で抗体開発を進めております。カドヘリン3 (CDH3) 及びトランスフェリン受容体1 (TfR1) を標的とする3つの抗体の開発を継続して進めているほか、これに続く候補抗体が研究開発段階にあります。また、次世代の創薬に向けて、効率性を向上させる抗体取得技術の整備や、当社ファージライブラリの改良を継続的に進めています。当社のパイプラインの開発状況は次のとおりです。

##### a. PPMX-T002

PPMX-T002は、がん細胞で多数発現しているCDH3を標的とする抗体に、イットリウム90 ( $^{90}\text{Y}$ ) という放射性同位元素 (RI) を標識した抗がん剤候補です。がん細胞上の標的に抗体が集積し、 $^{90}\text{Y}$ が放射線を照射してがん細胞を殺傷する仕組みです。導出先の富士フイルム株式会社 (以下「富士フイルム社」) の事業方針の変更により、2022年3月に実施権が返還された後、新たな医薬品候補として開発を進めております。なお、富士フイルム社の子会社が米国で行った拡大第I相試験においては、本抗体が標的のがん細胞へ集積することが確認されております。当社は現在、RI医薬品開発会社への導出に向けて、 $^{90}\text{Y}$ から、最も高い有効性が期待されるアクチニウム225 ( $^{225}\text{Ac}$ ) を中心にRIの変更を検討し、導出先候補と開発戦略を詰めております。

##### b. PPMX-T003

PPMX-T003は、当社独自のファージライブラリの中から、当社が特許を保有するICOS法というスクリーニング技術を活用して取得したユニークな完全ヒト抗体です。標的は、細胞内への鉄の取り込みに関与し、増殖が盛んながん細胞に極めて多く発現するTfR1です。本抗体がTfR1に結合すると、がん細胞内への鉄の取り込みを阻害し、それによってがん細胞の増殖を抑制する抗腫瘍効果が得られます。PPMX-T003は、その増殖抑制効果から様々ながんに対する治療効果が期待できると考えられ、鋭意研究開発を進めております。

TfR1は、がん細胞のほかに、赤芽球細胞 (赤血球になる前の細胞) にも極めて多く発現しています。このため、赤血球が異常に増える疾患である真性多血症 (PV) において、赤血球数を正常化する効果が期待できると考えられ、まずはPVを対象とした第I相試験を国内で実施いたしました。2024年6月28日付けでお知らせしたとおり、最後の患者さんでの試験が中止となり、終了いたしました。現在、当該試験のデータの固定化を進めておりますが、その後治験総括報告書作成へと進め、導出活動をさらに本格化させてまいります。

なお、国内外の血液学会において行われた本治験の中間報告では、3名の治験者でのPPMX-T003の安全性及び薬理効果が報告されたほか、2024年7月に行われたThe 14th JSH International Symposium 2024ではデータ固定が完了している5名の治験者で主要評価項目の安全性及び副次的評価項目の瀉血不要期間 (治療効果) が確認されたことが報告されました。

本抗体はまた、アグレッシブNK細胞白血病 (ANKL) という超希少疾患に対する有効な治療薬となる可能性も見出されております。国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) の「創薬支援推進事業・希少疾病用医薬品指定前実用化支援事業」への採択を受けて実施されている医師主導第I/II相試験では、2023年9月に2名の患者さんに投与が行われました。広島大学病院を中心に、治験実施施設を全国7か所に設けて、被験者が見つかった際にはすぐに治験に参加いただき、治験薬を投与できる体制を整えております。また、血液内科だけでなく、全国の一般内科や消化器内科の医師に対しても協力を呼び掛けるなど、被験者の方の登録が進むようサポートを行っております。

このほか、急性骨髄性白血病、悪性リンパ腫等の血液がん及び固形がんに対する治療薬としての作用機序を明確化するため、名古屋大学等と共同で臨床効果に関する創薬研究を推進しております。

##### c. PPMX-T004

PPMX-T004は、CDH3を標的とする、薬剤を結合した抗体薬物複合体 (ADC) です。最新の薬物と、これを結合させるためのリンカー等の最適な組み合わせを検討しており、試験管での試験で見出した有望な組み合わせについて、マウスによる実験でも高い抗腫瘍効果を認めました。これを受けて、現在はサルによる予備毒性試験を進めております。

ADCは、抗体に結合した薬物を細胞内に取り込ませることで、対象のがん細胞を特異的に殺傷することができるため、患者さん自身の免疫機能の状態に関わらず高い臨床効果が期待できます。

## ② 抗体研究支援

抗体研究支援の売上高は、一部の案件で納期遅れが発生したため、930千円（前年同期比57.4%減）となりました。

## ③ 抗体・試薬販売

抗体・試薬販売の売上高は19,932千円（前年同期比11.8%減）となりました。また、湧永製薬株式会社と共同でPTX3迅速計測キットの開発も継続的に進めております。

以上の結果、当第1四半期累計期間の売上高は20,862千円（前年同期比15.8%減）となりました。研究開発費は、PPMX-T003のANKLの医師主導第I/II相試験やPVの第I相試験の実施等により154,388千円となり、営業損失は221,799千円（前年同期は営業損失234,569千円）となりました。経常損失は、為替差益等による営業外収益10,076千円を計上した一方、新株予約権の行使による増資に伴う租税公課等2,949千円を営業外費用として計上した結果、214,672千円（前年同期は経常損失224,249千円）となりました。また、当社が保有する固定資産につきまして「固定資産の減損に係る会計基準」に基づく減損損失として3,880千円を特別損失に計上したことにより、四半期純損失は219,167千円（前年同期は四半期純損失422,124千円）となりました。

なお、当社は医薬品事業のみの単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第1四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ513,146千円増加し、2,206,956千円となりました。主に、新株予約権の行使に伴う株式の発行等により現金及び預金が584,304千円増加したことによるものであります。

## (負債)

当第1四半期会計期間末の負債は、前事業年度末に比べ4,516千円増加し、299,982千円となりました。主に、AMEDの「創薬支援推進事業・希少疾病用医薬品指定前実用化支援事業」への採択により交付された助成金である長期預り金が25,000千円増加した一方、未払金、未払費用及び未払法人税等が22,465千円減少したことによるものであります。

## (純資産)

当第1四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べ508,629千円増加し、1,906,974千円となりました。主に、新株予約権の行使に伴う株式の発行により資本金と資本準備金がそれぞれ359,565千円増加した一方、四半期純損失219,167千円の計上により利益剰余金が減少したことによるものであります。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期にはPPMX-T002及びPPMX-T003の導出契約の締結を見込むものの、当該契約の締結による一時金等の金額が確定しておりません。2025年3月期の業績予想につきましては、現時点で当該契約が2025年3月期の売上高・事業費用に及ぼす影響についての合理的な予測が困難であるため、記載しておりません。業績見通しが判明した場合には、速やかにお知らせします。

一方、費用面につきましては、販売費及び一般管理費1,043百万円を見込んでおります。このうち研究開発費としてPPMX-T004の開発やPPMX-T003のANKL治療薬の医師主導治験の実施等により729百万円を、その他の管理費として314百万円を、それぞれ見込んでおります。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2024年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,541,419	2,125,724
売掛金	13,660	5,797
製品	1,308	1,280
貯蔵品	3,098	3,107
前渡金	3,086	3,252
前払費用	5,475	12,719
未収消費税等	70,150	12,164
その他	12,747	47
流動資産合計	1,650,947	2,164,093
固定資産		
有形固定資産	0	0
無形固定資産	0	0
投資その他の資産	42,862	42,862
固定資産合計	42,862	42,862
資産合計	1,693,810	2,206,956
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払金	53,465	51,266
未払費用	57,486	42,991
未払法人税等	13,079	7,308
預り金	4,946	4,165
賞与引当金	—	2,763
流動負債合計	128,978	108,495
固定負債		
長期預り金	166,487	191,487
固定負債合計	166,487	191,487
負債合計	295,465	299,982
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,971,019	2,330,584
資本剰余金	2,256,908	2,616,474
利益剰余金	△2,903,700	△3,122,868
自己株式	△21	△21
株主資本合計	1,324,205	1,824,168
新株予約権	74,139	82,805
純資産合計	1,398,344	1,906,974
負債純資産合計	1,693,810	2,206,956

(2) 四半期損益計算書  
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
売上高	24,776	20,862
売上原価	1,528	654
売上総利益	23,247	20,208
販売費及び一般管理費		
研究開発費	157,651	154,388
その他	100,165	87,618
販売費及び一般管理費合計	257,817	242,007
営業損失(△)	△234,569	△221,799
営業外収益		
受取利息	8	57
為替差益	10,322	10,017
その他	0	1
営業外収益合計	10,331	10,076
営業外費用		
新株発行費	—	432
租税公課	—	2,517
その他	11	—
営業外費用合計	11	2,949
経常損失(△)	△224,249	△214,672
特別利益		
固定資産売却益	47	—
特別利益合計	47	—
特別損失		
本社移転費用	67,595	—
減損損失	129,845	3,880
特別損失合計	197,440	3,880
税引前四半期純損失(△)	△421,642	△218,552
法人税、住民税及び事業税	481	615
法人税等合計	481	615
四半期純損失(△)	△422,124	△219,167

## (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第1四半期累計期間において、新株予約権の権利行使に伴い、資本金と資本剰余金がそれぞれ359,565千円増加しております。これにより、当第1四半期会計期間末の資本金は2,330,584千円、資本剰余金は2,616,474千円となっております。

(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
減価償却費	2,253千円	225千円

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

## I 前第1四半期累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）

当社の事業セグメントは、医薬品事業のみの単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

## II 当第1四半期累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年6月30日）

当社の事業セグメントは、医薬品事業のみの単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。